

電子ジャーナル

○ 電子ジャーナルの現状

- ・「北海道大学における学術研究コンテンツの整備方策について（提言）」（平成14年3月）（以下「提言」）に基づく導入と整備方針の確立
- ・共通経費化（全学特定経費）された購入財源
- ・学術文献データベース等と双璧をなす学術研究コンテンツとして整備推進
- ・学術文献データベースとの相互リンク実現，ホームページ（電子ジャーナルリスト）や蔵書検索（OPAC）からのアクセスの容易性
- ・約14,000以上の電子ジャーナルタイトル
- ・全タイトルアクセスサービス（出版社等が提供する全電子ジャーナルを提供するサービス）の積極導入

※「電子ジャーナル導入の基本方針」（「提言」より）

- 1 電子ジャーナルは、全学的観点により導入を図る。
- 2 現在購入している学術雑誌を中心として、本学の研究者、学生が可能な限り多くの学術研究コンテンツにアクセスできる環境を整備する。
- 3 電子ジャーナルの購入経費は、共通経費化する。
- 4 電子ジャーナルに対応する印刷体については、印刷体を必要とする部局経費により整備する。
- 5 電子ジャーナルの導入にあたっては、全国的、国際的活動と連携する。

○電子ジャーナルの導入及び整備の経緯

- 平成12年度 「資料整備に関する懇話会医系・理系合同会議」による外国雑誌の重複調整のなかで電子ジャーナルの導入が図られる。
- 平成13年度 「学術研究コンテンツの整備に関する検討小委員会」（以下「検討小委員会」）が設置される。図書館委員会の下に「学術研究コンテンツ小委員会」（以下「小委員会」）の設置。検討小委員会で検討された「提言」が図書館委員会の了承を経て、部局長会議で了承される。
- 平成14年度 「提言」が評議会です承される。
小委員会で電子ジャーナル導入に伴う運用上の諸課題について検討を行い、図書館委員会に報告して了承が得られる。
- 平成15年度 「提言」に基づく電子ジャーナルの導入開始。
購入経費共通の経費化。
- 平成16年度 Nature Archive など多数のバックファイルが整備される。
- 平成17年度 小委員会でアクセス統計に基づく電子ジャーナルの見直し。

○北海道大学における全タイトルアクセス一覧（平成18年度）

1	ACM (Association for Computing Machinery)	12	LexisNexis Academic
2	ACS (American Chemical Society)	13	LWW (Lippincott Williams & Wilkins)
3	APS (American Physical Society)	14	OUP (Oxford University Press)
4	BioOne	15	Project Euclid
5	Blackwell	16	Project MUSE
6	Cambridge University Press	17	ProQuest ARL
7	Duke University Press	18	ProQuest HMC
8	EBSCO ASE	19	ScienceDirect
9	JSTOR (Arts & Sciences I Collection)	20	SpringerLink
10	JSTOR (General Science Collection)	21	UniBio Press
11	Karger	22	Wiley